

国立 国会 図書館 月報

NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2018.9/10



開館70周年記念展示 本の玉手箱

―国立国会図書館70年の歴史と蔵書―

資料の世界の歩き方 変体仮名でめぐる資料あれこれ(終)

国立国会図書館のレファレンスサービス70年

―二つのトピック―



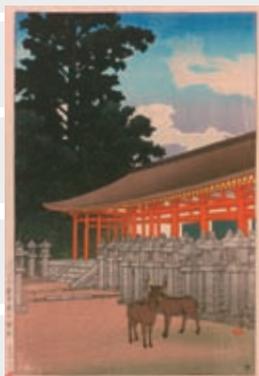
過去を読み、未来を読む。

国立国会図書館 月報

NO. 689 / 690
SEPTEMBER / OCTOBER
2018
CONTENTS

- 1 「兵要地誌図」にみる
中島敦がいた時代のパラオ
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 5 開館70周年記念展示 本の玉手箱
— 国立国会図書館70年の歴史と蔵書 —
- 14 資料の世界の歩き方 変体仮名でめぐる資料あれこれ⑧（終）
活字にもなった変体仮名
- 20 国立国会図書館のレファレンスサービス70年
— 二つのトピック —

- 26 館内スコープ
ロマンを伝えるために
- 27 本屋にない本
『土木と文明』
- 28 NDL Topics



表紙：
「奈良春日神社」川瀬巴水 画
[渡辺版画店] 大正10（1921）年
1枚 39×27cm
（『旅みやげ 第2集』所収）
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2592076/4>

*「開館70周年記念展示 本の玉手箱—国立国会図書館70年の歴史と蔵書—」関西後期で展示します。

「兵要地誌図」にみる 中島敦がいた時代のパラオ

富田 穰 治



パラオ諸島兵要地誌資料圖 其2 (コロール島, アラカベサン島, マラカル島)
参謀本部 [作] 参謀本部 1944.6調製 <請求記号 YG813-856 >

明治期から第二次世界大戦終結までの陸軍参謀本部陸地測量部は、アジア太平洋地域について多数の地図を作製してきた。戦争や植民地統治のために作製されたこれらの地図は、「外邦図」と呼ばれている。外邦図は、当時の地理情報を克明に記録した資料として独自の価値を持つものの、それゆえに秘匿性の高い軍事情報として厳重に管理された上、終戦時に大量に焼却されたこともあって、謎の多い資料群である。

国立国会図書館では、帝国図書館旧蔵資料に加え、参議院図書館からの移管、外務省や国土地理院、東京地学協会などからの寄贈、市中からの購入など多岐にわたる収集活動によりコレクションを充実させてきた。

その中でも興味深いのが、「兵要地誌図」である。兵要地誌図は、基図となる地形図等に、陣地の構築、車両の通行や舟艇による上陸の容易さ、食糧や飲料水の確保などの情報を記載したものである。軍事行動にかかわる様々な地誌的情報が記載されているため、当時の状況がより鮮明に伝わってくる。

その一つが、昭和19(1944)年6月に参謀本部が調製した「パラオ諸島兵要地誌資料圖 其2 (コロール島, アラカベサン



(左) 中島敦 (1909-1942) 肖像
『中島敦全集 第1巻 (耽美派の研究、雑纂、断片、余録)』文治堂書店
1960 <請求記号 918.6-N566n2>

(右) 「南洋廳正門」
『南洋群島寫真帖』南洋廳 編纂
南洋廳 1932.7
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1899662/19>

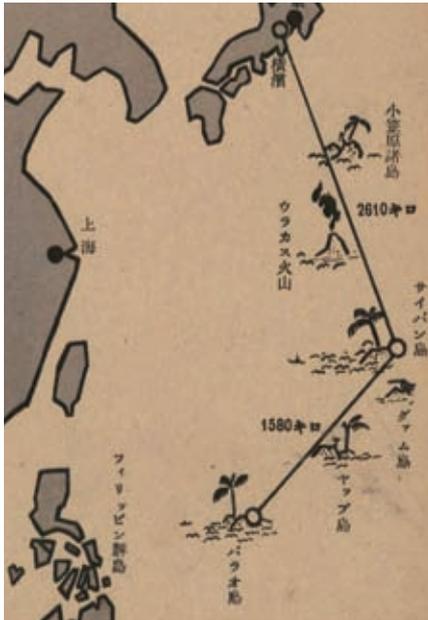


南洋委任統治領の中心地だったコロールには、中島敦が勤務した南洋庁のほか、日本放送協会(特殊法人化される前の社団法人時代、現NHK)の放送局や新聞社(南洋新報社)に加えて、野球場などの娯楽施設もあった。

島「マラカル島」である。もともと、その年の3月のパラオ大空襲で地図上の多くの施設は灰燼に帰しているため、本資料が伝えるのはその直前の姿であろう。

第一次世界大戦後に、南洋委任統治領として旧ドイツ領南洋群島を獲得した日本は、その統治機関として大正11(1922)年に南洋庁をパラオ諸島のコロールに設置した。その南洋庁内務部地方課編修書記としてコロールに赴任したのが、短編小説『山月記』で名高い中島敦である。現地での日本語教育に用いる教科書を作成するのが主な職務であった。この赴任の動機には、持病の喘息の転地療養に加え、南洋への憧憬もあったのだろう。『宝島』の作者ステイヴンソンのサモアにおける晩年の生活を描いた小説『光と風と夢』や、「ある時はゴードンの如くまじき野生のいのちに觸ればやと思ふ」「ある時はステイヴンソンが美しく夢に分け入り酔ひしれしこと」(『和歌でない歌』)といった短歌からはその一端が窺える。中島敦の赴任は昭和16(1941)年7月6日、まさに本資料が伝える時代である。

当時の南洋委任統治領は、サトウキビの栽培、鯉節製造、リン(燐)鉱業などで発展し、日本人も急増して昭和10(1935)

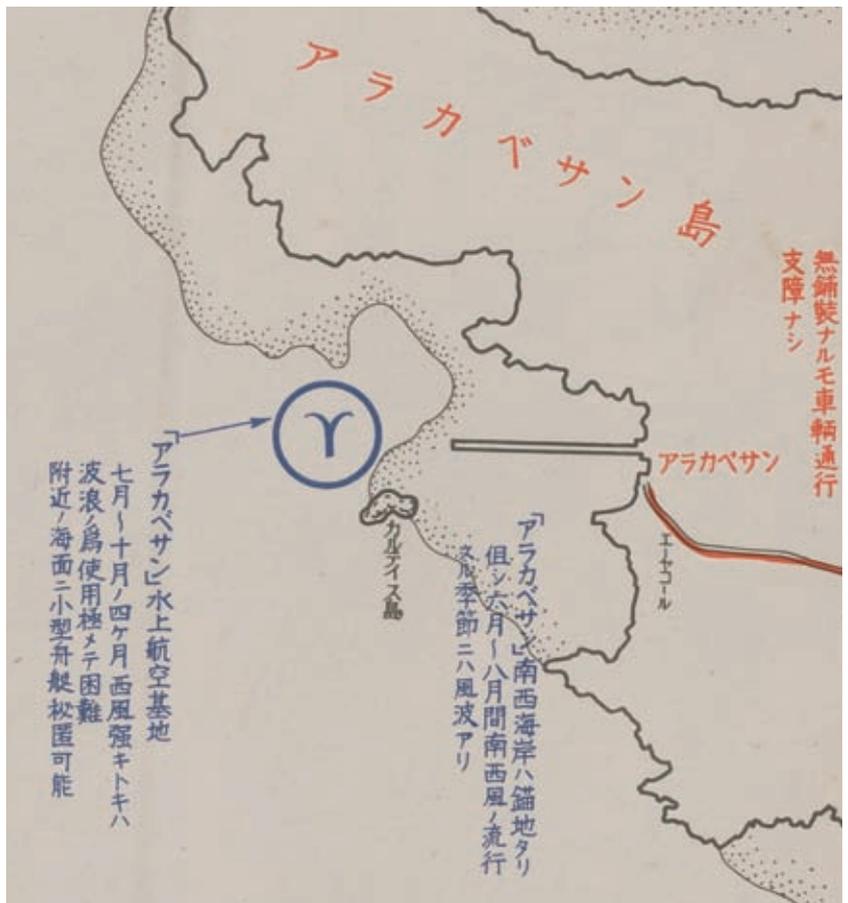


(上) 南洋定期航空路

(右上) 川西式25人乗り四発飛行艇

『写真週報』112号 情報局 1940.4<請求記号
雑58-6>

1930年代の長距離航空便は、広大な滑走路を必要とせず着陸できる大型飛行艇が世界的に主力であった。横浜～パラオ線などの南洋方面には、川西式四発飛行艇（九七式飛行艇）が就航していた。



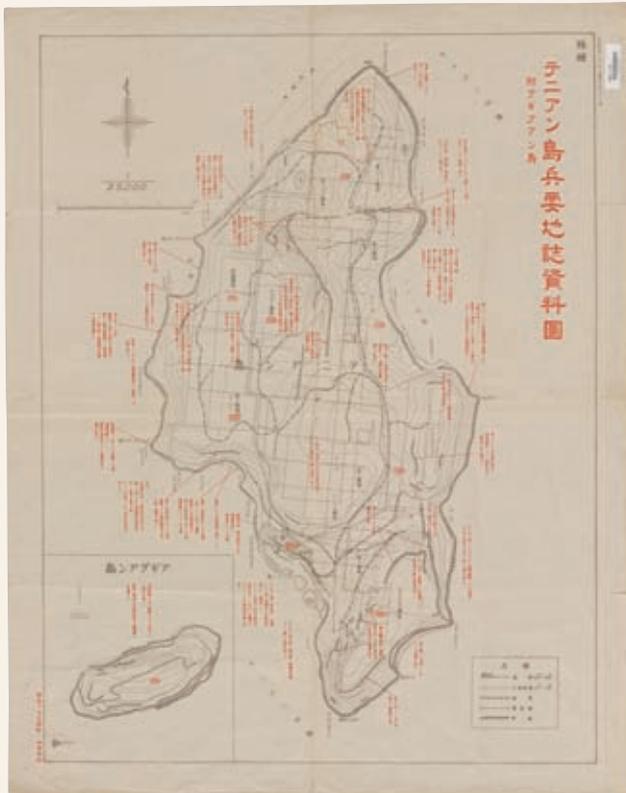
兵要地誌図では、基図となる地形図上に、軍事行動にかかわる様々な地誌的情報が、朱色や青色などの文字や記号で加刷・加筆されている。

年には約5万2千人となり、在来住民数を上回った。

南洋委任統治領の経済的・軍事的重要性が高まるとともに交通網も充実し、昭和15（1940）年には横浜～パラオ間、翌年にはパラオ～ヤルト間の航空路線（大日本航空株式会社）まで開設された。中島敦も南洋庁の出張では南洋島内線の飛行艇を利用している。本資料では、丸に囲まれたYのような記号で示されているのが、水上機専用の飛行場である水上航空基地である。

しかし、繁栄は外面的なものに過ぎなかった。「お前が南方に期待してゐたものは、斯んな無爲と倦怠とはなかつた筈だ。それは、新しい未知の環境の中に己を投出して、己の中にあつて未だ己の知らないいである力を存分に試みることだったのではないのか。」（『環礁—マイクロネシア巡島記抄—』『眞書』）と記したとおり、中島敦もまた憧れの南洋に幻滅する。パラオの気候が合わずにかえって喘息を悪化させたうえ、「この公学校の教育は、ずるぶん、ハゲシイ（といふよりヒドイ）教育だ。まるで人間の子をあつかつてゐるとは思へない。何のために、あんなにドナリちらすのか、僕にはわからない。（中略）こんな教育をほどこす所で、僕の作る教科書なんか

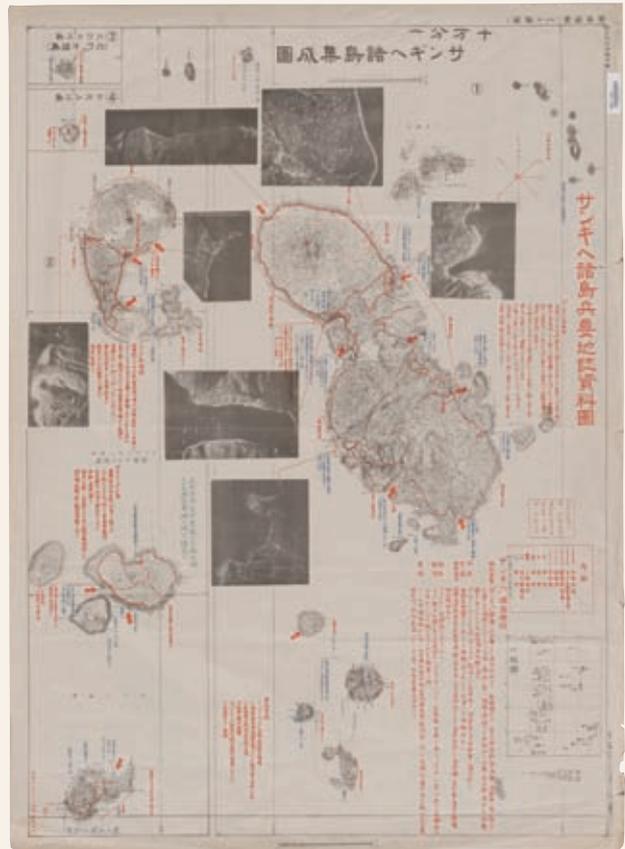
当館所蔵の兵要地誌図から



『テニアン島兵要地誌資料圖 附アギグアン島』

参謀本部【作】 参謀本部 [1944] <請求記号YG813-710>

テニアン島は、サイパン島の南西に位置する。昭和20(1945)年8月、広島および長崎に原爆を投下した米軍のB29爆撃機はこの島から出撃した。



『サンギヘ諸島兵要地誌資料圖 十万分一サンギヘ諸島集成圖』

参謀本部【作】 参謀本部 [1944] <請求記号YG831-1320>

本資料は、昭和19(1944)年に撮影された航空写真を基に空中写真測量を行ったものである。本資料に掲載されている写真は、その一部である。

○参考文献

- 『南洋庁職員録 昭和16年10月1日現在』南洋庁長官官房秘書課 南洋庁長官官房秘書課 1941.12 <http://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/1271144/33>
- 『航空輸送の歩み』大日本航空社史刊行会 編 日本航空協会 1975<請求記号DK211-22>
- 『地図資料概説』鈴木純子 著 国立国会図書館 1996.3<請求記号ME61-G13>
- 『中島敦全集』全4巻 中島敦 著 高橋英夫〔ほか〕編 筑摩書房 2001.10-2002.5<請求記号KH421-G9>
- 『パラオ—ふたつの人生鬼才・中島敦と日本のゴーガン・土方久功』世田谷美術館 2007<KB91-J3>
- 『南海漂蕩』岡谷公二 著 富山房インターナショナル 2007.11<請求記号KB91-J1>
- 『近代日本の地図作製とアジア太平洋地域』小林茂 編 大阪大学出版会 2009.2<請求記号GE115-J6>
- 『外邦図-帝国日本のアジア地図』小林茂 著 中央公論新社 2011.7<請求記号GE113-J48>

使はれては、たまらない。今の教科書で十分なんだ。」(昭和16(1941)年12月2日 中島たか宛書簡)と妻に宛てたとおり、皇民化教育の実態を目にして、理想と現実との乖離を思い知ったのだ。中島敦は、昭和17(1942)年3月に帰国し、同年12月に死去した。

中島敦がいた時代のパラオ諸島、その一瞬の時代の光芒を伝える本資料からは、「南洋」への重層的なイメージが喚起される。

開館 70周年 記念展示

本の玉手箱

国立国会図書館
70年の歴史と蔵書

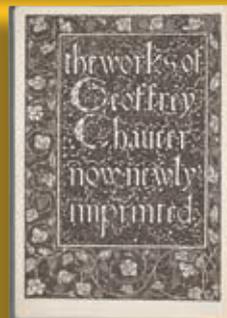
世界で最も
古いとされている
印刷物*を収納



美しい本、珍しい本、どこかで見た本、巨大な本など、さまざまな本を展示します。

よりすぐりの所蔵本を
大公開！

70a
過去を読み、
未来を読む。



この秋、開館 70 周年を記念した展示会「本の玉手箱—国立国会図書館 70 年の歴史と蔵書—」を開催します。

昭和 23 (1948) 年の開館以降の当館の歩みと、約 4,300 万点に及ぶ蔵書の多様さを、約 180 点 (展示替え分を含む) の展示資料によりご紹介いたします。

本誌ではその中からダイジェストで、目玉資料を披露します。

東京 国立国会図書館 東京本館
新館1階展示室

10月18日(木)~11月24日(土)
10:00~19:00(土曜日は18:00まで)

〈前期〉10月18日(木)~11月2日(金)
〈後期〉11月5日(月)~11月24日(土)

関西 国立国会図書館 関西館
地下1階大会議室

11月30日(金)~12月22日(土)
10:00~18:00

〈前期〉11月30日(金)~12月8日(土)
〈後期〉12月10日(月)~12月22日(土)

入場
無料

日曜・祝日・第三水曜日
(11月21日・12月19日)は休館

※各期間に展示する資料は東京会場約120点、関西会場約110点です。

※東京会場のみ・関西会場のみで展示する資料があります。

<http://www.ndl.go.jp/exhibit70/>

上段左上から順に右へ。
1. 富士暮雪 (『名勝八景』のうち) [歌川] 豊国 (二代) 画 [1833-1834 年頃] 東京後期
2. 太子伝記 うち第 8 冊 [江戸時代前期] 写 関西後期
3. The works of Geoffrey Chaucer, now newly imprinted Kelmscott Press [1896 年] 東京前期
4. The birds of America v.4 by John James Audubon (複

製) Abbeville Press 1985 年 (フラミンゴ顔部分)
5. みだれ髪 与謝野晶子 著 東京新詩社 1901 年
6. 解体新書 4 巻序図 1 巻 うち序図 [キュルムス 著] 杉田玄白 [ほか] 訳 小田野直武 画 須原屋市兵衛 1774 年
7. 梅園草木花譜 春之部巻 1-4 うち巻 2 [毛利] 梅園 書画 并撰著 [江戸時代後期] 写 東京前期
8. 君たちはどう生きるか 吉野源三郎 著 脇田和 絵 新潮社

1949 年
9. 無垢浄光陀羅尼 770 年 * 印刷された年代が明確なものうち、現存する世界最古の印刷物です。

はじめに

今この『国立国会図書館月報』を手にとっておられる方であれば、当館をお使いになったことがある方も多いと思います。学術研究、仕事や趣味の調べものなどのために、当館のさまざまな資料を利用されていることでしょう。当館の蔵書(図書)は平成24年度には1000万冊を超え、現在ではさらに100万冊以上増えています。雑誌・新聞やマイクロ資料などを含めると4340万点を数えます。

当館は、今から70年前、昭和23(1948)年6月5日、赤坂離宮(現在の迎賓館)「花鳥の間」を閲覧室として開館しました。そのころの蔵書(図書)はおよそ33万冊(昭和23年度末、『国立国会図書館年報 昭和23年度』によ

る)でした。翌年移管され国立国会図書館の蔵書となった旧帝国図書館の蔵書(図書)も、およそ105万冊にすぎませんでした。この105万冊という数は、帝国図書館の前身にあたる東京図書館の蔵書などをふくむ、およそ70年間に収集した資料です。その後、当館が開館してから70年の間にその数十倍にもあたる実に多くの資料を収集してきたことになりました。

これらの資料はどのようにして当館の書庫にたどりついたのでしょうか。日本国内で新たに出版された資料を当館に納めなければならぬという、国立国会図書館法で定められた「納本制度」によって受け入れた資料が中心であるのはいうまでもありません。しかし、それだけではなく、諸機関や個人からの寄贈により受け入れた資料、外国資料や古典籍資料のように一

定の基準にしたがって購入した有用な資料や歴史的・文化的に貴重な資料、外国の図書館との交換により受け入れた資料もあります。

どのような資料があるのか、少し書きあげてみましょう。明治時代以来の市販されている図書、古い漫画雑誌、新聞、官庁の公報、諸外国の官報、大活字本、録音図書、音楽のレコードやCD、地図、和漢洋の貴重な古典籍、錦絵、明治の元勳の手紙、原子炉を設置する際の許可申請書、1980年代までのテレビドラマの脚本……と

てもここには書ききれません。今回開催する「本の玉手箱―国立国会図書館70年の歴史と蔵書―」では、右にあげたようなさまざまな資料を、開いた箱の中から思いがけない素敵なものが次々と出てくる玉手箱にイメージを重ねて紹介していきます。当館の歩みを紹介する第1部と、いくつかの

視点に沿って資料を紹介する第2部とで構成し、全体で約180点(展示替えあり。同時には120点程度)の資料を展示します。

多くの展示資料のなかには、かならずや皆さんの関心を惹く資料があるものと思います。あるいは新たな発見があるにちがいありません。そして、これらの本はいずれも閲覧のできる資料です。気になる資料がありましたら、展示会の会期終了後、御来館のうえ、1ページ1ページめくってご覧いただければと思います(デジタル化資料でご覧いただく場合もあります)。

ここでは、展示資料のごく一部をご紹介しますと思います。是非とも会場に足をお運びいただき、ここで紹介しなかった資料もふくめ展示資料をご覧いただけますよう、お待ちしております。

国立国会図書館

第1部 国立国会図書館の70年

当館の源流の一つである帝国図書館に触れつつ、昭和23（1948）年の開館以降の当館の歩みを年表と資料約30点で紹介いたします。帝国図書館開館に尽力した田中稲城たなか いなぎによる意見書の草稿や第二次世界大戦中の資料疎開に関わる資料、当館を特徴づける立法調査資料の第1号『社会保障への道程』や、新たに定められた納本制度のもとで受け入れた資料の目録『納本月報』などを展示します。



「各国々立図書館ノ設アラザルナシ」

東京図書館ニ関スル意見書（草稿）「明治24（1891）年頃」写【帝文・41】

のちに初代帝国図書館長となる田中稲城いなぎは、明治23（1890）年に1年半に及ぶ欧米留学から帰国し東京図書館長に就任すると、先進国に遜色ない国立図書館の実現に向け、邁進しました。展示資料は、田中が国立図書館の必要性を説いたものです。

利用券3銭?

国立国会図書館支部上野図書館として生まれかわる昭和24（1949）年までの間、利用が有料だった時代もありました。



創刊号はA4版で青い表紙が印象的ですが、当時は「装丁やデザインが粗末」などと当館内で不評でした。この表紙は初号のみで姿を消し、2号はA5版になって表紙デザインも新しくなりました。



※【】は請求記号

初の立法調査資料

社会保障への道程 国立国会図書館調査及び立法考査局 昭和23（1948）年【EG1-G70】



昭和23（1948）年、国会への奉仕を任務として新たに設置された調査及び立法考査局は早速、次期（第3回）国会に向け、立法調査に着手しました。右はその最初の成果として国会議員に配布された立法調査資料第1号です。

納本制度とともに

納本月報 1巻1号 国立国会図書館受入部編 国立国会図書館管理部 昭和23（1948）年9月【Z025.1-N1】

新たに定められた納本制度（国立国会図書館法第25条）によって、当館に納入された新刊図書などの目録として刊行されました。初号は納本された新刊図書953冊のほか、寄贈図書、特殊出版物（楽譜、地図など）を収め、新着図書速報の役割も兼ねていました。これが、のちに『納本週報』『日本全国書誌』などへと変遷していきます。

帝国図書館 館名板



第2部 さまざまな蔵書

第1章 美しい本・珍しい本

美しい本や変わった装丁の本などを展示します。まず、近代印刷の理想書といわれるケルムスコット・プレス *The Works of Geoffrey Chaucer* (東京前期) や

ダブズ・プレス *The English Bible* など、つぎに、大名や公家などが手にした豪華な本、趣向をこらした庶民向けの戯作など、西洋と日本の美しい本をご覧いただきます。

つづいて、正岡子規の自筆資料やコレクターが集めたスクラップブック、風変りな装丁が施された本、仕掛絵本など珍しい本を、最後に2代歌川豊国の「名勝八景」などの錦絵、川瀬巴水^{かわせはみず}などによる近代の絵画、『梅園草木花譜』*Les lilacées* など和洋の博物誌を展示します。

飾らない、端正な美

The English Bible The Doves Press
1903-1905 [WB41-68]

イギリス王ジョージ5世の命により1611年に完成した英訳聖書。簡潔な表現、荘厳な韻律、美しい語句法は、近代英語の散文に影響を与えました。1900年、私家版印刷所ダブズ・プレスを開設したT・J・コブデン＝サンダーソンは、ニコラ・ジャンソンのローマン体に基づくダブズ活字を用い、抑制された美を追求したことで有名です。



東京前期 それ以外の会期には他の巻号を展示します

ケルムスコット・プレスは豪華な装飾で有名です。会場で見比べて、ダブズ・プレスの「抑制された美」を感じてみてください。



東京前期 それ以外の会期には他の巻号を展示します

合巻本の美しさと仕掛け

花袋狐草紙^{はなふくそうし} (3編12巻 うち初編 仮名垣魯文作 一猛斎芳虎画 錦橋堂山田屋庄次郎 文久2(1862)年 [W114-13])

庶民向けの合巻本(江戸時代の絵入小説)の一つ。擬人化された狐や狸が繰り広げる恋愛騒動を描いています。表紙の縦半分を折り返すと、描かれた人物が狐や狸の姿態に変わる「変わり絵」と呼ばれる仕掛けが見られるのが特徴です。



叙情豊かに描かれた、
美しい日本の原風景

後志国せたかむろ岩（川瀬）巴水
〔画〕川瀬巴水 昭和10（1935）
年写【寄別7・3・1・Z】

川瀬巴水自筆。巴水は、近代風景版画の第一人者。日本各地を旅行し、写生した風景画やその原画をもとにした版画を多く残しました。セタカムイ岩は、北海道余市町と古平町の町境にある高さ80mの奇岩。セタカムイとはアイヌ語で「犬の神」のこと。



東京前期

それ以外の会期には巴水の他の作品を展示します。本誌表紙で使用した「奈良春日神社」は関西後期に展示します。

学術的で芸術的な花譜

Les Iliacées par P.J. Redouté
Chez l'auteur, Impr. de Didot
jeune 1802-1816 【WB32-2(44)】

フランスで活躍し、植物画の芸術性を高めたピエール・ジョセフ・ルドゥーテの代表作。ユリ科を対象としていますが、今日でのヒガンバナ科やアヤメ科なども含まれます。ステイプル技法（点刻法）により、輪郭のない美しい多色刷りを実現しました。英国鉄道年金財団旧蔵。



関西前期

それ以外の会期には他の巻号を展示します

東京後期では、『梅園草木花譜』の百合の部分も展示します。和と洋で百合の描き方はどう違うでしょうか？

ミノムシ使用本!



←モザイク状に貼り込まれているのはなんと糞虫の糞。1冊につき、約30匹が使われています。

『書斎の岳人』小島鳥水著 書物展望社 昭和9（1934）年【663-83】

第2章 どこかで見た本

どなたにも見覚え、聞き覚えのありそうな内容の本を展示します。子どもの頃に親しんだロビンソン・クルソーの物語やアンデルセンの童話、ドラえもんなど有名なマンガのキャラクター…今でも多くの人に愛されるこれらの作品やその主人公をそれぞれ昔の姿で紹介します。

また、『解体新書』や『みだれ髪』といった、教科書あるいはテレビなどで見たことがあるような本、『平治物語〔絵巻〕』や富岡製糸場などの記憶に残る絵を、歴史の流れにそって紹介します。さらに明治22（1889）年に発布された大日本帝国憲法、昭和21（1946）年に公布された日本国憲法にまつわる資料を数点ずつ紹介します。

読み進めると、心臓（ハート）の王様と女王様に愛ちゃんは名乗ります。
「私の名は愛子です。」
愛ちゃんは、愛子ちゃんだったんですね。



今は、アリスです

愛ちゃんの夢物語 ルイス・キャロル著 丸山英観（薄夜）訳 内外出版協会 明治43（1910）年【32-441】

原作の全文を忠実に翻訳した点において、最初の「不思議の国のアリス」です。アリスは、日本人のような「愛ちゃん」という名前が登場します。挿絵は、原作中に見られるジョン・テニエルのもの。

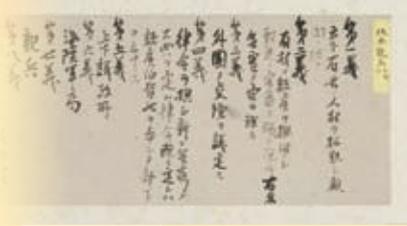


アンパンマン初登場！

「こどものえほん⑩アンパンマン」（やなせたかしえと文） P H P
1969年10月号 通号257号
P H P 研究所【Z23-140】

顔はアンパンではなく、「ふくらんだおなか」や「マントの下」からアンパンを出し、子どもたち配るなど、現在のアンパンマンとは姿が少し異なりますが、「世界じゅう」の困っている人のために、という姿勢は変わりません。

龍馬直筆、また登場するぜよ



過去の企画展示「あの人直筆」などにも出展した人気の坂本龍馬直筆、今回も出展します。

新政府綱領八策（『亡友帖』のうち） 慶応3（1867）年11月【石田英吉関係文書1】

東京前期

富岡製糸場は明治政府の殖産興業政策の一環として、明治5（1872）年に建設された官営模範製糸場。フランスから技術者を招き、生糸生産の近代化に取り組みました。本資料は操業当初の富岡製糸場の外観で、現在国宝に指定されている東西の置繭所などの建物が見えます。一曜斎国輝（二代歌川国輝）は江戸時代末期から明治にかけて活躍し、明治開化絵では代表的な絵師の一人です。

世界遺産になりました

上州富岡製糸場 一曜斎国輝

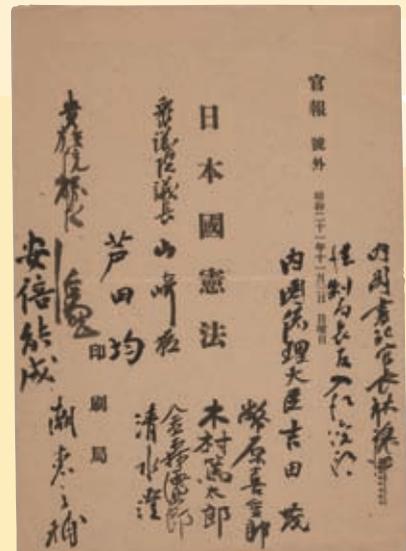
画 明治5（1872）年【本別9-28】



上段左から二番目、「貴族院議長」の肩書の下サインは誰のものでしょうか？ 答えは「徳川家正」です。ぎょうにんべん【イ】がやたら縦に長いですね。



数々のサイン入り
日本国憲法（官報号外） 昭和21（1946）年11月3日【入江俊郎関係文書46】
日本国憲法は昭和21（1946）年11月3日に公布されました。展示資料は、当時法制局長官であった入江俊郎が所蔵していた、吉田茂をはじめとする関係者の署名入りのものです。



第3章 世を映す本

時代性に富み、しかも当館が収集した資料の多様さを実感していただけるに違いないものを揃えました。戦後すぐの時期のカラー写真「モージャー氏撮影写真資料」や、日本の国際連合への加盟に関する国連の議事録をはじめ、日本初の女性の博士論文や、原子炉設置許可申請書、往年の人気テレビドラマ「太陽にほえろ」の脚本、さらにさまざまな媒体の変遷を遂げてきた録音資料などを展示します。

戦後の息吹が伝わる

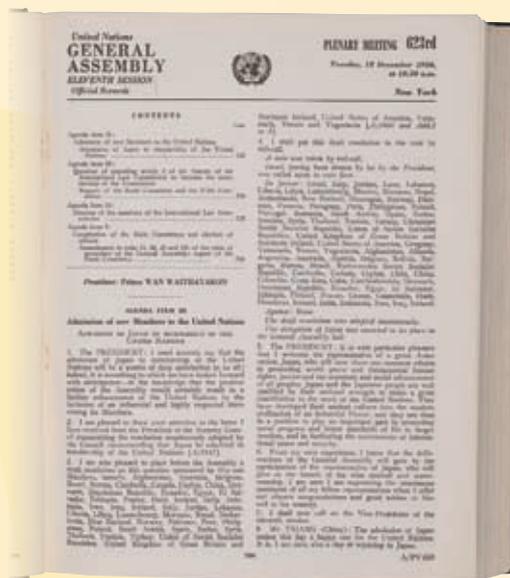
モージャー氏撮影写真資料 Robert V. Mosier [撮影] 昭和21-22 (1946-1947)年 昭和21 (1946)年4月から昭和22 (1947)年1月に、GHQの文民スタッフとして日本に滞在したロバート・モージャーが撮影した写真群です。全国各地で撮影した街頭風景や建築物のカラー写真304枚で構成されています。平成20 (2008)年に米国在住のモージャーの親族から寄贈を受け、デジタル化作業を行いました。



(左)「露店と映画演劇の広告看板」

(右)「参謀本部焼け跡」 ※現在は憲政記念館

看板に見えるのは「エノケンの法界坊」、「沓掛時次郎」、「人生は四十二から」。いずれも戦前の映画です。戦後早くも昭和20 (1945)年8月30日には「伊豆の娘たち」と「花婿太閤記」が封切られました。主力はまだ戦前の映画でした。



ついに国連加盟が実現

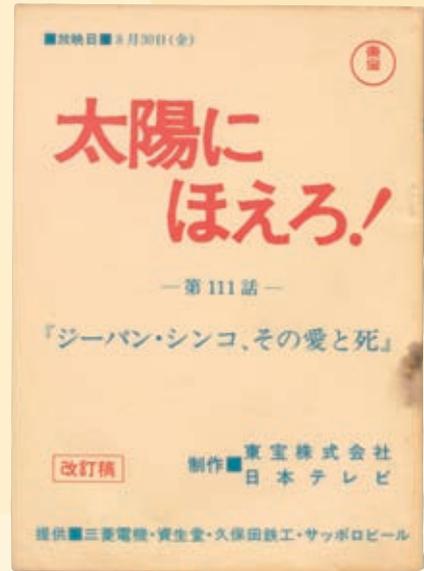
United Nations, Official Records of the General Assembly, Eleventh Session, Plenary Meeting, 623rd Meeting 1956年12月18日【国連ドキュメント番号 A/PV.623】

当館は、日本に14館ある国際連合寄託図書館の一つとして、国際連合の情報へのアクセスを国会や行政・司法、そして国民に提供するという重要な役割を果たしています。掲載箇所は、昭和31 (1956)年12月18日の国際連合総会で、日本の国際連合への加盟が承認された際の議事録です。

この「太陽にほえろ」の脚本には、脚本家として、若き日の市川森一のほか、ドラえもんの声でおなじみの女優 大山のぶ代も名を連ねています。大山のぶ代が脚本を書いていたなんて意外です。

なんじゃーこれは!!
セリフが変わっている!

太陽にほえろ! 111 改訂稿
小川英著 1974年8月30日
(放送) 【Y851-N01-16283】
「太陽にほえろ」は、昭和47
(1972)年から昭和61(1986)
年までテレビ放映された刑事ドラマ。
1960年代のアクション映画の脚本に筆を振った小川英^{おがわひさ}をはじめ多くの脚本家がこの人気番組を支えました。展示資料は、松田優作演じるジーパン刑事の殉職の回の脚本。書入れのある別本と比較すると当時の制作の過程を知ることができます。



お宝を見に来てね



国立国会図書館 東京本館
新館1階展示室

10月18日(木)~11月24日(土)

10:00~19:00(土曜日は18:00まで)

〈前期〉10月18日(木)~11月2日(金)

〈後期〉11月5日(月)~11月24日(土)

入場
無料

日曜・祝日・第三水曜日
(11月21日・12月19日)は休館



国立国会図書館 関西館
地下1階大会議室

11月30日(金)~12月22日(土)

10:00~18:00

〈前期〉11月30日(金)~12月8日(土)

〈後期〉12月10日(月)~12月22日(土)

※各期間に展示する資料は東京会場約120点、関西会場約110点です。

※東京会場のみ・関西会場のみで展示する資料があります。

開館70周年記念展示講演会

※詳細はホームページをご覧ください。

事前申込制

▶東京会場 10月27日(土) 14:00~15:30

「一冊の中には小宇宙
~江戸時代のスクラップブックを開く~」

|講師| ロバート キャンベル氏
(国文学研究資料館長)

|会場| 国立国会図書館東京本館 新館講堂

▶関西会場 11月10日(土) 14:00~15:30

「本でまなぶこと 街がおしえてくれること」

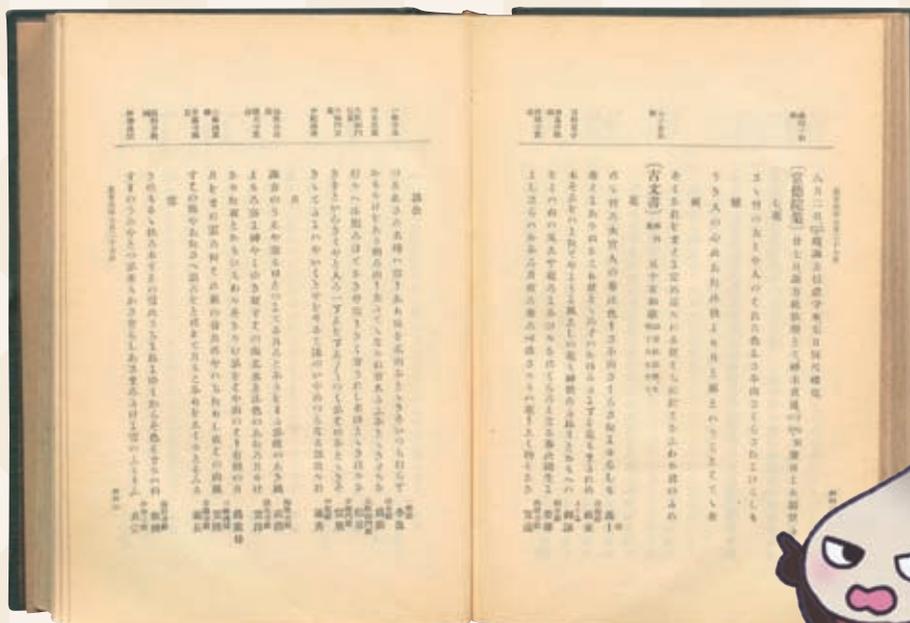
|講師| 井上章一氏
(国際日本文化研究センター教授)

|会場| 国立国会図書館関西館 地下1階大会議室

活字にもなった変体仮名

藤田 壮介

月をま
1 雲
2 乃
軒を
此
3 萩の
音
4 あ
や
ハ
ち
5 ね
わ
6 し
夜
その
山
風



大日本史料 第8編之20
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/3450602>
(249～251 コマ目)



今回で卒業か。最後は何読むの？

時代はずいぶん新しくなって、1940年に出版された『大日本史料』第8編之20を読むよ。

1940年？ 新しいって言ってもオイラには大昔だよ。写真でしか見たことないご先祖様たちの時代だも
ん。

それはそうだけど、これまでよりはだいぶ新しいじゃない。本の感じを見てごらんよ。

ほんとだね、もう今の普通の本みたい…でも、あれっ？
今まで覚えてきたみたいな字がいっぱいあるよ。

なんだか不思議な感じでしょ？ こんなに多くの種類の変体仮名が使われている活字の本はちょっと珍しいけど、こういうものもあるんだよ。特にここは和歌を記録しているところだから、変体仮名が多く使われているね。さて、今回はここに出てくる和歌を四首読んで、いよいよ君に教えるのも終わりだよ。

もうラスト四つか。頑張るぞ！
じゃあまずは月を詠んだこの歌から読んでみて。

変体仮名の文字コード

今回取り上げた資料では、変体仮名の活字が用いられて印刷されています。見かける機会はあまり多くありませんが、変体仮名を用いた印刷が必要とされる分野も存在しており、変体仮名がコンピュータで扱えることは、それらの資料を編集する上で有用なと言えます。また、1947年以前は、変体仮名を用いた名前を付けることができました。そのため、戸籍をコンピュータで処理する時代になると、変体仮名も入力できるシステムが必要とされるようになります。

それらの需要にこたえるものとして、2004年に法務省民事局が定めた「戸籍統一文字」には変体仮名168種が収録されました。一方、国立国語研究所は、2009年から2016年に及んだ共同研究プロジェクトで、日本語の表記に関する研究や日本史学で必要とされる変体仮名264種を含む「学術情報交換用変体仮名セット」を選定しています。これらに収録された変体仮名を取り扱うことができれば、行政・学術両面において、必要な変体仮名はひとまず網羅されていると考えられます。

文字をコンピュータで取り扱う際の国際的な標準と言えばUnicodeです。2015年にIPA（情報処理推進機構）が、上記二つの変体仮名のセットから重複分を除いた文字をUnicodeへ追加することを提案しました。その結果、2017年6月に発表されたUnicode10.0には、変体仮名286種が登録されています。

今はまだ変体仮名を表示できるフォントが普及したとは言いがたいですが、いずれは誰もが手軽に変体仮名を入力できるようになる日が来ることでしょう。

起⁵利⁶
川¹
乃²
農³
佐⁴



えっと、「月をま…雲…軒はの荻の音…やはちぎりし夜はの山風」かな。漢字は今とだいたい一緒だから読みやすいね。

うんうん、よく読んでいるよ。読めなかった字を説明すると、**1**は「川」という漢字が元になった「つ」。もつと崩れて左側の縦棒二本が縦に動かなくなると、今使われている「つ」と同じ形になるんだよ。

これだと、どっちかと言うと片仮名の「ツ」みたいに見えるね。前にも「支」が崩れて「き」になったのがあったね。今の漢字の読み方と違う仮名になるのは、オイラもう驚かないよ。ふふん。残りの字は？

2は「乃」が元になった「の」だよ。ほとんど漢字そのままだけど、これが崩れていつて今の平仮名の形になるんだ。**3**は「農」が元になった字でこれも「の」。全体的な形を見るとなんとなく面影があるような気がしない？

え、なんか「農」っていうのは無理じゃない？「忠」とかなら分かるけど。

まあたしかに、これはちよつと想像しにくいかもね。
農 ↓ **乃** みたいに崩れていったんだよ。それから **4**は「佐」が崩れてできた「さ」だよ。文字の左側は「イ（にんべん）」が元になった縦棒だね。

文字の右側は、こないだ覚えた「左」の崩れ方とは逆になって、「ち」みたいになるんだね。

そうだね。漢字の「御」の崩れた形とも似ているね。次は雪をテーマに詠まれたこの歌を読んでみて。

雪乃ちと氷のうへり又ふえてかち⁸流⁸や⁷ふ⁷す⁹目の水うと

万⁷

路⁸王⁹

かりくら¹²ち¹²つ¹³と¹³ハ¹³流¹³み¹⁴ろ¹⁴を¹⁴望¹⁴く¹⁴法¹⁰乃¹⁰布¹⁰う¹⁰た¹⁰こ¹¹し¹¹流¹¹の¹¹お¹¹を¹¹と¹⁵つ¹⁵ま¹⁵よ

布¹⁰具¹¹

春¹²徒¹³登¹⁴年¹⁵



なにに、「雪のなみ氷のうへに又こえてかちろや...よ
ふすわの水うみ」かな。うくん、一文字分かんないや。
上に点があれば「て」っぽいんだけど。

そうだね、でもその他は⁸「路」も⁹「王」もきちんと
と読めててばつちりだよ。⁷は「万」が崩れてできた「ま」
なんだ。

そっか！ これは確かに「万」っぽいね。
よし、どんどん行くよ。今度は釈教と言って仏教に関
係することを詠んだ歌だよ。

えっ、仏教？ オイラに読めるかな？ なににに：「か
りくらすつみはつみかはとく法の...かきこゝろのお...
をたつねよ」かなあ。

うん、それで読めているよ。¹⁰は「布」が元になった
「ふ」で、¹¹は「具」が元になった「く」だよ。この字
は具↓々々 という感じで崩れているもので、けつ
こう使われるから覚えておくといいよ。

はい。ねえ、次は？ もうあと一つで終りでしょ。

そうだね、遂にこれで卒業だね。最後はホトトギスを
詠んだ歌だよ。

つれなさは名残ハ空りあわ河峯志山不とくきさいつち行らむ

16 気無

18 那



行ってきまーす!

月をまつ雲の軒はの荻の音のさやはちぎりし夜はの山風
 雪のなみ氷のうへに又こえてかちろやまよふすわの水うみ
 かりくらすつみはつみかはとく法のふかきころのおくをたづねよ
 つれなさの名残は空にありあけの山ほとくきさいつち行らむ

三条西実隆
 姉小路基綱
 高清
 一条冬良

よし、ラスト、しっかり読むぞ! 「つれなさの名残は空にありあ…の山ほとくきさいつち行ら…」う〜ん、なんかごちゃごちゃした字が二つ読めないや。確かにどっちも線が多くてごちゃごちゃした字だね。16は、「気」という漢字が **氣** ↓ **峯** と崩れてできたもので「け」「気」の部分の上の所だけで終わっているから、漢字のイメージはつかないかもね。あと一文字は?

最後の17は「無」という漢字が元になった「む」だよ。
無 ↓ **む** と崩れていて、これも元の字の雰囲気はあまりないけど、一番下の横線が「ハ」を表わしているんだね。

さあ、これで君は卒業だよ。おめでとう! やったー、終わった!! これでオイラもご先祖様たちの書いた字が読めるようになったんだね。

うん、もちろんまだ教えていない変体仮名もあるけど、今までに出てきた字をちゃんと覚えていけば、かなりの部分は読めるはずだよ。たまには思い出して、忘れないようにしてね。

は〜い。でもまずは卒業旅行だ。実はもうすつかり準備万端だから、今から行ってくるよ。写真いっぱい撮ってくるね。バイバイ!

| | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| な | た | さ | か | あ |
| 那 奈 | 多 堂 | 佐 左 | 可 | 阿 |
| に | ち | し | き | い |
| 尔 尔 | 耳 丹 | 志 | 幾 起 | 支 以 |
| ぬ | つ | す | く | う |
| 川 | 津 徒 | 須 春 | 具 | 宇 |
| ね | て | せ | け | え |
| 年 祢 | 天 亭 | 勢 世 | 希 介 | 氣 |
| の | と | そ | こ | お |
| 能 農 | 乃 登 | 楚 曾 | 所 古 | 於 |

おさらばい



全部覚えてるかな？



7/8月号宿題の答え
 えんぼう 遠方にかこつけ常に御無沙汰いたし候。御両親様はじめ
 いよく 御無事に御くらし遊ばし候哉。文して御尋申上候。

| | | | | |
|----|----|-----------------------------------------------------------------------------------|----|-------|
| わ | ら | や | ま | は |
| 己王 | く良 |  | 万満 | 冬盤 冬者 |
| ゐ | り | | み | ひ |
| ぬ為 | 理里 | 梨利 | 季李 | 三美 |
| を | る | ゆ | む | ふ |
| 銭越 | 海流 | 留類 | 子累 | 無無 |
| | れ | 合略文字 | め | へ |
| | 礼連 | トモ | 免免 | 冬遍 |
| | ろ | よ | も | ほ |
| | 洛路 | 与 | 茂毛 | ふ本 |

免許皆伝じゃ



やったー!



(絵・正保五月)

新しい連載も準備中
お楽しみにね!



国立国会図書館の レファレンスサービス70年 —二つのトピッカー—

渡辺 由利子



過去を読み、未来を読む。

それから近所の図書館まで行き、レファレンスのデスクに座った髪の毛の長いやせた女の子に「哺乳類の頭蓋骨に関する資料はあるでしょうか？」とたずねてみた。彼女は文庫本を読みふけていたが、顔をあげて私を見た。

「失礼？」と彼女は言った。

「哺乳類の／頭蓋骨に関する／資料」と私はきちんと文節を切って繰り返かえた。

これは、村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』（新潮社1985）の一場面で、主人公が図書館を訪れ、「哺乳類の頭蓋骨に関する資料」を職員に探してもらおうとところが描かれています。このように、資料を探したり、調べ物をしている利用者に対して、特定の資料の所蔵の有無を回答したり、調べ方を案内し、調査の支援をするサービスをレファレンスサービスと呼びます。日本においては十分に知られているとはいえないサービスですが、国立国会図書館は開館当初から行っており、現在では全国の多くの図書館も

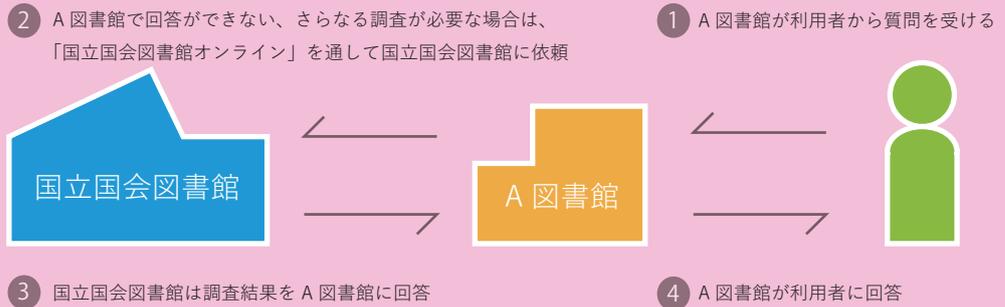
提供しています。

開館からの70年間、国立国会図書館が提供してきたレファレンスサービスの形は一樣ではありませんでした。ここでは、国立国会図書館のレファレンスサービスの歴史の中で、特徴的な二つのトピッカーをご紹介します。

図書館協力体制の萌芽と広報

図書館におけるレファレンスの一般的な受理方法には、来館、電話、ウェブフォームがありますが、国立国会図書館では、ウェブフォーム経由での個人からのレファレンスは受け付けていません。まずはお近くの図書館に相談するよう案内しています。その代わり、「国立国会図書館オンライン」を通じて全国の図書館からの問い合わせを受けています。全国の図書館では、利用者の方々から受けたい質問に回答できなかった場合やさらなる調査を行いたい場合に、国立国会図書館にその質問を送付します。国立国会図書館ではその依頼に応じて調査を行い、依頼元である図書館に回答を送ります。流れは上の

レファレンスサービスにおける現在の協力体制



『レファレンスの手びき: 米国議会図書館考査局一般考査書誌部の要領書』
米国議会図書館〔著〕, 国立国会図書館一般考査部〔編訳〕 国立国会図書館一般考査部, 1952.5 <請求記号 UL731-19 >



『国立国会図書館利用のてびき: 主として一般利用者のために』
国立国会図書館一般考査部 編 春秋会 (国立国会図書館内), 1954 <請求記号 016.11-Ko5482k >

図のとおりです。

このような図書館協力体制によるレファレンスサービスの提供は世界的に珍しく、筆者が平成25(2013)年に米国、英国、フランス、イタリア、デンマーク、ノルウェーの図書館を訪問して調査を行った際に、国立図書館や王立図書館と各地の図書館の間でこのような協力体制を構築している国は一国もありませんでした。ある図書館で回答ができず、国立図書館や王立図書館に問い合わせることが適切な場合には、その図書館に直接問い合わせることを勧めるといったのが一般的な形です。

では、国立国会図書館では、いづごろから図書館協力体制によるレファレンスサービスの提供を意識し始めたのでしょうか。

昭和29(1954)年に国立国会図書館一般考査部が編集した『国立国会図書館利用のてびき』には、「九文献調査や研究について援助を求めたい方は」の項目で、サービスの範囲から除外されるものとして「依頼者の居住する地域の公共図書館や職域の図書館で十分解決しうる問題、

またはその地域や職域の図書館で最もよく解決できる問題」と書かれています。国立国会図書館では比較的初期の段階から、レファレンスの申し込みが集中することを避けるために、地域の図書館を先に利用してもらうという方針をとっていたことがわかります。

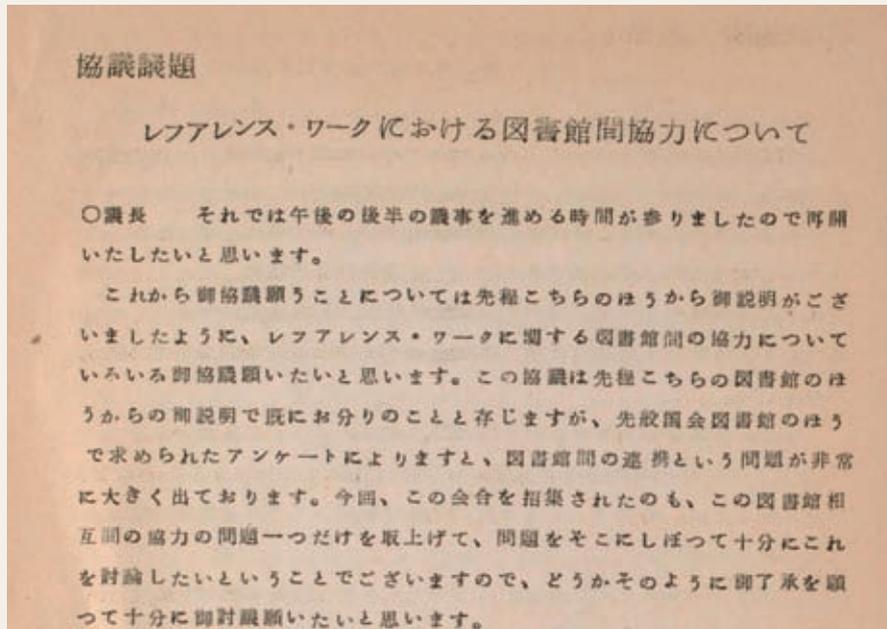
これと同様の記述は、昭和27(1952)年の『レファレンスの手びき』にも見られます。米国議会図書館が刊行した“General Reference and Bibliography Division, Library of Congress Departmental & Divisional Manuals” No.14, Washington, 1950を当時の国立国会図書館一般考査部の職員が翻訳したもので、「市立、郡立、州立または他の地方図書館の資料で充分に合うと思われる質問は、普通、それらの図書館に照会されたい旨を書き添えて返送する。」との記述があります。翻訳を通じて米国議会図書館におけるレファレンスサービスの提供方法を学ぼうとしていたことがうかがえます。

しかし実際は、個々の利用者からの郵送でのレファレンス申し込みを

協議会は当時国立国会図書館が置かれていた赤坂離宮（現迎賓館）の羽衣の間で行われました。文部省図書館職員養成所教官による全国の図書館のレファレンス業務の実態調査の報告、各図書館からのレファレンス業務の概況報告の後、「レファレンス・ワークにおける図書館間協力について」というテーマで協議が始まりました。（下は協議の冒頭部分）



『レファレンス・ワーク連絡協議会議事録』
国立国会図書館一般考査部，1957 <請求
記号 015.2-Ko548r >



制限する具体的な手段は取られず、年々件数は増えてきました。

昭和32（1957）年3月16日、公

立図書館のレファレンス業務担当者による「レファレンス・ワーク連絡協議会」が開催され、「レファレンス・ワークにおける図書館間協力について」というテーマで協議がなされました。会の趣旨は、国立国会図書館にレファレンスを直接申し込む利用者には、まずは地域の図書館を利用することを勧めたいという国立国会図書館の意向について参加者と意見交換することになりました。

当時、NHKのラジオ放送を通じて、国立国会図書館はレファレンスサービスを広報していました。その結果、申し込みが増加し、回答担当者たちが「てんてこ舞い」だったそうです。『国立国会図書館年報』に記録されている一般考査部によるレファレンスの受理件数を見ると、昭和24年度4293件、昭和25年度4461件、昭和26年度5007件、昭和27年度7082件、昭和28年度10133件、昭和29年度

14536件と年々増加し、国立国会図書館だけで対応することが困難になりつつあったことがうかがえます。

しかしながら、地域の図書館の利用を促進することには、量的な問題への対処のただけではなく積極的な意味がありました。当時の考査書誌課長が会を開催した理由について、「せっかく地方の図書館でレファレンス・ワークを通じてサービスがされておられ、これが地域の住民とその地域の図書館とを結びつける非常にいい武器ではないのかと考えたから」と発言しています。この時期、地域の図書館のサービスは十分に知られていませんでした。利用者に地元図書館をまず利用するように促すことにより、全国の図書館の利用促進と、そこで提供されているレファレンスサービスの広報を兼ねることができるとは考えられませんでした。

これに呼応して以下のような意見がありました。

たとえ国会図書館であっても全国

からのレファレンスの要求が全部国会図書館に殺到されては困られるのではないだろうか。ですから地方がまず第一の窓口となつてやつて、そこで選りすぐったものが国会図書館に来るようにするのが当前（ママ）のことだと思つのですがね。（渋谷国忠（前橋市立図書館長））

国会図書館には地方ではできないサービスの面があると思うのです。その点については我々地方の立場からいって是非国会図書館でやっていただきたいと思つますし、また地方は地方で国会図書館ではできないサービスの面を持つておりますから、そういう点については国会図書館のほうから地方へ出していただければはつきりするだろうと思つます。（中略）また地方の図書館が全国的な組織を持つてレファレンスをやらなければ、サービスが徹底しないこともはつきりしております。そうすれば全国的な組織をどうして作つていくかということになるわけです。その場合に国会図書館が中心になるほう

が組織がうまくいくということであれば、そういう方面に御援助下さることが考えられるべきではないかと思つのです。（蒲池正夫（徳島県立図書館長））

ほかにもさまざまな意見が出ましたが、まず会の趣旨であつた各地域の図書館にレファレンスを申し込むよう利用者に勧めることについては大部分の出席者が賛同し、そのことが全国の図書館の活性化につながることも確認されました。実際この会の開催後、ラジオのローカル放送でレファレンスサービスを広報する場合は、それぞれの地方の府県立ないし市立図書館などと事前に連絡をとる、それらの図書館の広報方針との関係を顧慮した上で放送するよう申し入れたことが記録に残つています。^(注)

なお、このあとだいぶ経つた昭和61（1986）年、国立国会図書館は図書館協力部を創設し、組織として図書館協力を積極的に取り組むようになりまし。その際、図書館から

の依頼を図書館協力部が一元的に受け付け、個人からの郵送のレファレンスよりも、図書館からのレファレンスに早く回答する方針が強化されました。この時期の統計を見ると、個人の利用者からの依頼が全体に占める割合が徐々に減つていくことがわかります（グラフ1）。

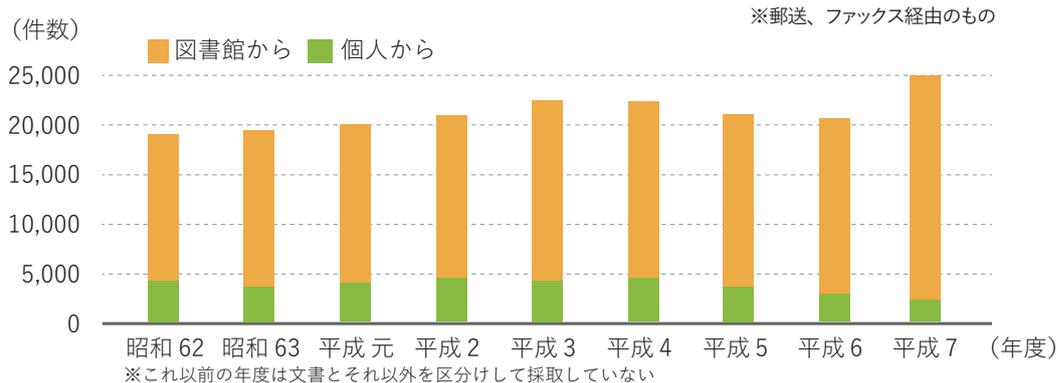
そして、平成14（2002）年にウェブフォーム経由でのレファレンスサービスの受け付けを開始し、事前に登録した図書館にIDとパスワードを提供し、ログインした上で、オンラインでレファレンスを申し込んでもらうという体制が実現しました。

所蔵調査から情報発信へ

国立国会図書館のレファレンスサービスの歴史の中で注目したいもの一つの点は、蔵書目録の変化がレファレンスに与えた影響です。

国立国会図書館の蔵書は長年、主にカード目録で管理されてきました。資料のタイトル、著者名、出版社名、刊行年などが記載されたカードがタイトルや著者名から探せるよ

グラフ1 文書レファレンスの依頼元別の件数





(上) 本館目録ホルのカードボックス



(下) 利用者による端末での検索

(いずれも平成9(1997)年の写真)

うに並べられて専用の棚(カードボックスと呼びます)に収められていました。来館利用者が資料を閲覧する際には、それらのカードで請求記号を確認し、紙の請求票に記入して申し込むのです。電話で蔵書の有無を問われた際に、カードボックスまで走って行って調べ、電話に戻り回答していたことを記憶している職員もいます。このカード目録は、昭和35(1960)年からは数年ごとに編纂される冊子目録としても刊行され、都道府県立図書館などに頒布されるようになりましたが、最新の情報を確認するには国立国会図書館のカード目録にあたる必要があり、このような所蔵調査がレファレンスサービスの中心を占めてきました。

蔵書目録は1970年代からの機械化によりコンピューターで検索できるようになっていきました。そして、昭和63(1988)年に目録はCD・ROM化され、全国の図書館にも頒布されました。

彼女はしばらく下唇をかんで考えこんでいたが、「ちよっとお待

ち下さい。調べてみます」と言って、くるりとうしろを向き、コンピューターのキーボードに『ほにゅるい』という単語をうちこんだ。二十ばかりの書名がスクリーンにあらわれた。彼女はライトペンを使ってそのうちの $\frac{3}{5}$ ばかりを消した。そしてそれをメモリーしてから、こんどは『こっかく』という単語をうった。七つか八つの書名が出てきて、彼女はそのうちの二つだけを残し、前のメモリーぶんの下にそれを並べた。(中略)

彼女はコピーのスイッチを押してモニターTVのスクリーン・コピーをとり、それを私にわたしてくれた。

「この九冊の中から選んで下さい」と彼女は言った。

これは冒頭の村上春樹の小説の引用の続きです。「ライトペン」やコピーを渡すくだりをのぞけば、1990年代の国立国会図書館の様子とそれほど違いません。また平成元(1989)年7月から来館者自身がCD・ROM端末で検索する実験

も行っていました。

その後、目録は部分的にインターネット公開され、徐々にデータ数を増やしていきました。平成14(2002)年10月にはNDL・OPAC(国立国会図書館蔵書検索・申込システム)が公開され、国立国会図書館の蔵書の大部分がインターネットで検索できるようになりました。

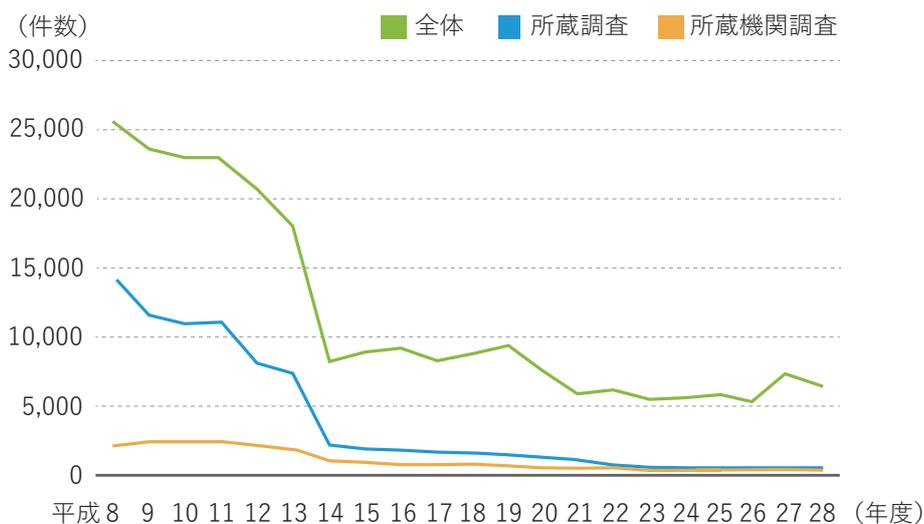
このような蔵書目録のインターネット上での公開は、全国の図書館でも進みました。平成10(1998)年の国立情報学研究所によるNAC S I S W e b c a tの本格提供や、平成16(2004)年の国立国会図書館総合目録ネットワーク事業の一般公開など、複数の図書館の所蔵情報を一括で検索できるようなシステムの構築も同じころに進められました。

村上春樹の小説の主人公は、図書館に来館して、職員に頼んで蔵書を調べてもらっていました。現在では来館することなく、また図書館員に依頼することなく、必要な本を探すことができるのです。

このように全国の図書館または利

グラフ2 文書レファレンスの種類別件数

※郵送、ファックス、ウェブフォーム経由のもの



ユーザー自身が蔵書検索をできるように環境を整備した結果、レファレンスサービスに大きな変化が生じた。まずは件数の減少があり、レファレンスの処理件数が最も多かった平成8（1996）年度の統計では、処理件数は25663件ありましたが、平成28（2016）年度には6509件と約75%減少しています。また質問の内容も変化しています。所蔵調査についての質問数が激減したのです。平成8年度の統計では、所蔵調査は14464件あり、全体のうちの56%を占めていました。しかしながら、平成28年度には所蔵調査は434件（7%）となり、平成8年度と比較すると、所蔵調査の件数は97%も減少しています。同じく平成8年度と平成28年度を比較して次に減少率が高いのは「所蔵機関調査」（ある資料を所蔵している図書館の調査）で90%減少しています（グラフ2）。

もちろん、図書館が提供するサービスの变化だけでなく、インターネット上に情報が増えたこともレファレンスの件数減少の大きな理由であると推測されます。図書館においても、インターネット上に有用な情報を提供していく情報発信型のサービスが、レファレンスサービスの重要な地位を占めるようになってきました。これも広義のレファレンスサービスと捉えることができます。現在、国立国会図書館では、蔵書目録のデータベースだけでなく、効率的に調べ物をするためのツールを作成しています。例えば、平成14（2002）年には、さまざまなトピックについて調べるときに役立つ資料やインターネット情報をまとめた「テーマ別調べ方案内」を公開し始めました。また平成17（2005）年には、過去のレファレンス事例を調べることができる「レファレンス協同データベース」も始めました。これは、当館のレファレンス事例だけでなく、全国の図書館が参加してレファレンス事例を登録するものです。

このように、全国の図書館と協力しながら、また利用者の調べ物を支援する最もよい形を模索しながら、国立国会図書館のレファレンスサービスは変化してきたのです。協同データベースには、769の図書館が参加し、約21万件のデータを提供、5310万ものアクセスがありました。前述の昭和32（1957）年の協議会では、レファレンスサービス提供のための全国的な組織の構築を求める意見が出ましたが、インターネットの普及により、当時は想像もなかった形で実現したと言えるでしょう。

「テーマ別調べ方案内」はその後の「調べ方案内」に名を変え、平成29年度末現在で1319件のデータを提供、一年間で約650万のページビューがありました。「レファレンス

注 『ぶっくわこん』12号(昭和32年4月20日)
国立国会図書館一般調査部・受入整理部
編春秋会<請求記号 Z21-145>

ロマンを伝えるために



みなさんは新聞をどのように読んでいますか？最近では、パソコンやスマートフォン、タブレットで読まれる方も増えているかもしれませんが、やはり新聞といえば大きな紙面を広げて読むイメージが強いのではないのでしょうか。

国立国会図書館では、全国紙をはじめ、地方紙、業界紙、専門紙、政党紙、スポーツ紙、外国の新聞など、約一万タイトル、約六〇〇万点の新聞を所蔵しています。これらの新聞は、紙やデータベースで読めるもののほかに、マイクロフィルムという媒体になっているものが多くあります。

マイクロフィルムとは、数cm幅のフィルムに紙面を一面ずつ小さく焼き付けたものです。ロール一本につき、日刊紙で半月分から一か月分ほどが収録されています。肉眼では読むことができないため、マイクロリーダーという機械を使います。この機械にフィルムをセットすると、紙面が大きく映し出され、ハンドルをくるくると回しながら読み進めます。

残念ながら、「マイクロフィルムは使いづらい」という声も少なくありません。一度使い方を覚えてしまえば簡単なのですが、確かに紙をめくるよりは手間が掛かってしまいます。私自身も、ある

記事を探してほしいというレファレンスを受けて、見つかるまで手首が疲れるほどハンドルを回し続けることもあります。

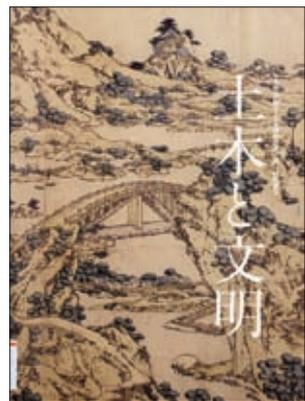
新聞そのものはとても傷みややすい資料です。どんなに大切に扱っても、時が経つにつれて、劣化や変色は避けられません。古い新聞の中には、触るのを躊躇してしまうほど状態の悪いものもあります。そのため、代わりにマイクロフィルムを使うことで、新聞の原紙を可能な限り永く保存できるように努めています。

新聞は、数百年前から今日に至るまで、様々な情報を伝え続けています。テレビやインターネットが発達した現代においても、それらの情報を網羅的に保存するメディアはまだありません。だからこそ新聞は、貴重な情報源になりえます。

新聞を通じて、長い歴史の流れを知ることができるということに、私は大いなるロマンを感じます。見出しや記事、広告だけでなく、文体や表記、フォントなどからも、それぞれの時代や場所の雰囲気が生きて浮かび上がってくるように思います。このロマンを何百年先にも伝えられるよう、かけがえない資料を守っていききたいです。

(図書館資料整備課新聞係 若荷谷新聞)

本屋に ない本



土木と文明

土木学会創立100周年記念式典特別展示

土木学会 土木図書館委員会

2015.9 75p 26cm

<請求記号 DL825-L34>

道路、鉄道、橋梁、河川、ダム、上下水道：私たちの生活は、様々なインフラストラクチャー（インフラ）によって支えられている。こうしたインフラの整備を可能にしたのは、土木技術の発展に他ならない。土木の歴史は、単なる建造物の歴史にとどまらず、国土の秩序形成や暮らしの豊かさに結びついており、文明構築の歩みそのものである、というスタンスのもと、様々な視点から土木と文明の歴史を紹介したのが『土木と文明』である。

本書は、土木やインフラという一見「かたい」テーマを扱っているが、土木学会創立100周年記念式典の特別展示がもとになっているため、写真や図表を多用することにより、読みやす

い構成となっている。

まず、「第1章 築かれた大地」で国土利用の変遷を概観し、「第2章 国土経営の手法」において、都市機能や交通ネットワーク等の整備を利用した、各時代の統治のあり方を考察している。「第3章 自然の脅威への対応」では、自然災害大国である日本において、どのような治水・防災対策が講じられてきたのかを紹介し、「第4章 都市の再生」では、災害や戦災を乗り越えて、新たな都市が築かれてきた様子を伝えている。「第5章 都市デザイン の多様性」「第6章 橋梁デザイン の多様性」では、様々な都市・橋梁のデザインの類型と、その背後にある思想を紐解いている。

本書の特徴は、土木やインフラにまつわる様々な事実・数値が、視覚的に表現されている点である。例えば、日本では、国土の4分の1を占めるに過ぎない平野部に、人口の約80%が集中している。しかし、初めから全ての平野部が居住に適していた訳ではなく、人の手によって拓かれたものであることが、地図の上で明らかにされている（第1章）。視覚にうったえる紙面構成により、土木分野の専門知識がなくても、本書の内容を楽しむことができるだろう。

巻末には、土木が果たしてきた役割とその担い手について、「ひろげる」「ささえる」「まもる」「はぐくむ」という四つの視座から整理したビジュアル年

表が収録されており、こちらも興味深い。例えば、かつて徒歩で13日を要した東京・大阪間は、今では新幹線（のぞみ）を使って2時間25分で快適に移動することができるし、将来リニア中央新幹線が開通すれば、約1時間ほどに短縮されるというから驚きである。先人の知恵と技術によって高度に整備された現代のインフラは、老朽化への対応が大きな課題となっている。歴史を知ること、私たちの暮らしを支えている土木とインフラの重要性を再認識し、いかに未来へと引き継いでいくか、考えさせてくれる一冊である。

（千田和明）

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

国際子ども図書館展示会 『赤い鳥』創刊100年―誌面を彩った作品 と作家たち―

国際子ども図書館では、平成30年9月9日(日)から平成31年1月20日(日)まで、展示会『赤い鳥』創刊100年―誌面を彩った作品と作家たち―を開催します。

「蜘蛛の糸」や「かなりや」のように、今も広く親しまれている童話や童謡を数多く世に送り出した児童向け雑誌『赤い鳥』が大正7(1918)年に創刊されて、今年で100年を迎えました。

この展示会では、主宰者として芸術的観点から児童文学の質の向上を目指した鈴木三重吉、童謡の発展に寄与した北原白秋など、『赤い鳥』で活躍した作家や詩人の作品を通して、同誌が日本の児童文学史において果たした役割をご紹介します。

- 開催期間
前期：平成30年9月9日(日)～平成30年11月11日(日)
後期：平成30年11月13日(火)～平成31年1月20日(日)
※月曜日、国民の祝日・休日、年末年始(12月28日～1月4日)、毎月第3水曜日(資料整理休館日)は休館
- 開館時間 9時30分～17時
- 会場 国際子ども図書館レンガ棟3階本のミュージアム



『赤い鳥』創刊100年展ポスター

〆関連行事のご案内〆講演会『赤い鳥』童謡と音楽

大東文化大学社会学部専任講師である周東美材氏しゅうとうみすけを講師にお迎えし、ご講演いただきます。

- 日時 10月21日(日) 14時～16時
- 会場 国際子ども図書館アーチ棟1階研修室1
- 対象 中学生以上(定員100名)
- 申込方法 往復はがきまたはインターネットのいずれかの方法でお申し込みください。
- 〆インターネットによる申込〆
台東区ホームページ内の「上野の山文化ゾーン講演会シリーズ」(http://www.city.taito.lg.jp/index/punka_kankou/forikumi/uenonoyana/koenkai.html)にアクセスし、専用のフォームからお申し込みください。

〆往復はがきによる申込〆

はがきの「往信用裏面」と「返信用表面」に必要事項をご記入の上、左記の宛先にお送りください。

- 「往信用裏面」の必要事項：
 1. 郵便番号・住所・氏名(ふりがな)
 2. 参加人数(1枚のはがきで2名まで。2名の場合はそれぞれの氏名を必ず明記してください。)
 3. 電話番号
 4. 「講演番号8番」「赤い鳥」童謡と音楽
- 「返信用表面」の必要事項：郵便番号・住所・氏名
宛先：〒110-8615 東京都台東区東上野4-5-6
台東区役所文化振興課「上野の山文化ゾーンフェスティバル」担当
- 締切 10月1日(月) 必着
- 問合せ先 国際子ども図書館資料情報課 展示係
電話 03(3827)2053(代表)

資料のデジタル化に伴う原資料の利用休止について

国立国会図書館では、所蔵資料の保存と利用の両立を図るためデジタル化による媒体変換を行い、作業が終了した後は、原資料に代えてデジタル化資料を提供しています。

このデジタル化作業のため、次のとおり一部の資料の利用を休止します。

- (1) 利用休止期間 平成31年3月末日まで(予定)
 - ・東京本館所蔵の和図書 約910冊
 - ・東京本館所蔵の雑誌 約180タイトル
 - 約1,930冊
- (2) 利用休止期間 平成30年9月25日～平成31年3月末日まで(予定)
 - ・関西館所蔵の国内刊行洋雑誌 93タイトル
 - 1,170冊

※ご利用いただけない資料は、国立国会図書館オンラインの所蔵一覧画面に、「作業中」の表示でお知らせしています。ご利用にあたっては、事前に検索してご確認ください。
※利用を休止する資料群ごとのタイトル等の一覧のほか、詳細については国立国会図書館ホームページでお知らせしています。

○掲載先 国立国会図書館ホームページ〆資料の保存〆資料デジタル化について〆デジタル化作業に伴う原資料の利用休止について

利用者の皆様にはご不便をおかけしますが、国民の文化的資産である国立国会図書館の蔵書を可能な限り永く保存し後世に伝えるため、ご理解とご協力をお願いいたします。

第20回図書館総合展に参加します

10月30日(火)から11月1日(木)にパシフィコ横浜で開催される「第20回図書館総合展」に、国立国会図書館も参加します。

開館70周年を迎えた国立国会図書館の多様なサービスを展示ブースで紹介いたします。次のフォーラム(講演会)も開催します。ぜひご来場ください。

フォーラム「A-クラウド技術は図書館サービスをどう変えていくか」国立国会図書館の次世代システム開発研究室の実験事業、関連研究から(仮)

○日時 10月30日(火) 13時～14時30分

○会場 パシフィコ横浜アネックスホール(定員100名)

○講師

阿辺川武氏(国立情報学研究所コンテンツ科学研究系特任准教授)

橋本雄太氏(国立歴史民俗博物館研究部助教)

寺本大修氏(近畿大学アカデミックシニア)

松村敦氏(筑波大学図書館情報メディア系助教)

里見航(電子情報部次世代システム開発研究室)

青池亨(電子情報部次世代システム開発研究室)

○お申込みは、9月上旬から国立国会図書館ホームページにて先着順で受け付けます。ホームページの「イベント・展示会情報」をご覧ください。

○問合せ先 総務部総務課広報係

電話 03(3581)2331(代表)

第20回図書館総合展(主催:図書館総合展運営委員会)

○期間 10月30日(火)～11月1日(木) 10時～18時

○会場 パシフィコ横浜横浜西区みなとみらい1-1-1



(上)

昨年度の展示ブース

(下)

今年もレファンレンス協同データベースのマスコット「れはっち」が登場します。

平成30年度アジア情報研修

アジア情報の収集・提供に関するスキル向上を図るとともに、アジア情報関係機関の連携を深めることを目的として、平成30年度アジア情報研修を行います。昨年度に引き続き、日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア経済研究所と共催で実施します。

○日時 平成30年11月8日(木)～9日(金)

○会場 関西館第1研修室

○対象 各種図書館、調査研究・教育機関、中央省庁・地方公共団体等に属する方、大学院生等。

○定員 20名(原則、1機関につき1名。応募多数の場合各は調整します。)

○テーマ 東南アジア諸国の政府情報(日本語と英語による調査を中心に)

○内容(予定)

11月8日(木) 13時30分～17時30分

実習①「東南アジア諸国の諸制度を調べる」(関西館アジア情報課)

講演「東南アジア諸国情報の入手方法」

講師 岡本正明氏(京都大学東南アジア地域研究研究所教授)

*終了後、情報交換会(会費制、希望者のみ)を予定してごます。

11月9日(金) 9時30分～12時

実習②「東南アジア諸国の統計情報を調べる」(アジア経済研究所図書館)

*受講者の方には、事前課題にご回答いただきます。

○参加費 無料。ただし旅費・滞在費等は受講者にご負担いただきます。

○申込方法 アジア経済研究所ウェブサイトの次のページからお申込みください。

「アジア情報研修 東南アジア諸国の政府情報(日本語と英語による調査を中心に)」

http://www.ide.go.jp/Japanese/Event/Library/20181108_kensyuhml

*申込受付後にお送りする確認メールが届かない場合は、左記までお電話ください。

○申込期限 平成30年10月14日(日)

*定員を超えた時点で受付を終了します。

*参加の可否は、平成30年10月18日(木)までにお知らせします。

○問合せ先

日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア経済研究所図書館 研究情報レファレンス課

電話 043(299)9716

FAX 043(299)9734

平成30年度国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会

6月28日、国立国会図書館東京本館において標記懇談会が開催されました。この懇談会は、国立国会図書館と公共図書館との協力の推進を図ることを目的として開催され、今年で54回目となります。今回は、都道府県立及び政令指定都市立図書館68館から81名が参加しました。

初めに、文部科学省が、図書館行政の動向について報告を行いました。続いて、今年度の懇談会のテーマ「障害者サービス」の下、当館が、視覚障害者等用データの収集及び送信サービス、平成29年度実施の『公共図書館における障害者サービスに関する調査研究』の調査結果、マラケシュ条約への対応等について報告しました。

次に、公共図書館から、高橋和治埼玉県立久喜図書館長が、同館の対面朗読サービス・点字・音声・デジタルコンテンツの製作や貸出等の提供サービスの内容、市町村立図書館の支援等について報告されました。また、三木信夫大阪市立中央図書館長は、同館のサービス担当の職員体制、サピエ図書館や国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービス等への参加、体験イベントの実施、ボランティアによる点字絵本等の製作や対面朗読協力等について報告されました。

質疑応答・懇談では、ウェブアクセシビリティの改善やボランティアの養成等についての質問が寄せられました。

なお、矢追武大阪府立中央図書館長及び岡本富士男

大阪府立中之島図書館長が、6月18日の大阪府北部の地震による図書館の被災状況について報告されました。

懇談会の前には東京本館の見学会を併せて行い、約50名が参加しました。

新刊案内

外国の立法 立法情報・翻訳・解説 第276号

アメリカの高齢者虐待防止に関する法律―2009年高齢者公正法、高齢者虐待防止及び訴追法―
ドイツ放送州間協定―ドイツにおける放送の制度と現状―
中国の公共図書館法



A4 107頁 季刊 1,800円 (税別)
発売 日本図書館協会
ISBN 978-4-87582-817-4

レファレンス 809号

2018会計年度国防授権法とアメリカの国防政策百条委員会の概要―地方議会における調査権について―(短報)

諸外国の選挙制度―類型とその効果―(資料)

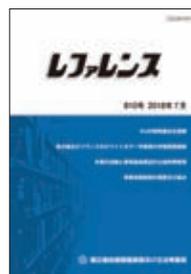


A4 54頁 月刊 1,000円 (税別)
発売 日本図書館協会

レファレンス 810号

EUの財政健全化指標

我が国及びフランスのホワイトカラー労働者の労働時間規制―「高度プロフェッショナル制度」創設に向けた動きに関連して―
米軍の活動と軍事基地周辺の土地利用管理―環境上の視点から―
事業承継税制の概要及び論点



A4 90頁 月刊 1,000円 (税別)
発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14
電話 03(3523)0812



#9 関西館中庭の風景
photo by Mizuho

9/10

NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2018.9/10

NO.689/690

SEPTEMBER /OCTOBER
2018

CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>
Reading about the Palau Islands when Nakajima Atsushi resided there,
through the *Heiyo chishizu*
- 05 The 70-anniversary Commemorative Exhibition: A Treasure Box of Books
— The 70-year History and Collections of the National Diet Library
- 14 Browsing library materials — Reading Japanese written in variant kana 8 (final)
Variant kana used as type in publications
- 20 The 70-year history of the reference services in the National Diet Library
— With a focus on two characteristic topics
- 26 <Tidbits of information on NDL>
To pass down the history of newspapers
- 27 <Books not commercially available>
Doboku to bunmei: Doboku gakkai soritsu 100shunen kinen shikiten tokubetsu tenji
- 28 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

平成30年9/10月号 (No.689/690)

平成30年9月1日発行

発行所 国立国会図書館
編集者 三浦良文
責任者

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
F A X 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp
http://www.ndl.go.jp/

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) >刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2018.9/10

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

